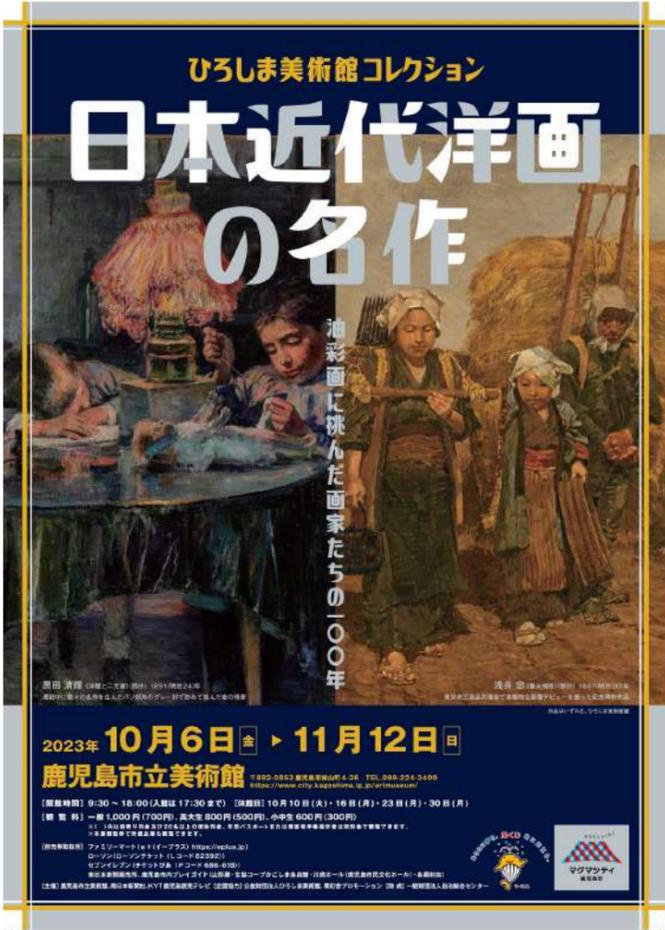


ひろしま美術館の珠玉のコレクションを味わい尽くそう!



公益財団法人ひろしま美術館は、印象派を中心としたフランス近代美術の優れたコレクションとともに、印象派以降の西洋美術から学んだ日本の近代洋画の秀作を多数所蔵しています。



日本の近代洋画は、西洋から本格的に油彩画の技術が導入された明治に始まり、大正、昭和と時代が進むなかで、西洋の模倣ではない日本独自の表現を求めて多様な展開をみせました。本展では、ひろしま美術館の珠玉のコレクションから、初期の洋画界を牽引した浅井忠や黒田清輝、明治浪漫主義を代表する青木繁や藤島武二、大正期に無二の個性を放つ

た岸田劉生、昭和期に黄金時代を築いた安井曾太郎と梅原龍三郎、異国を描いた佐伯祐三や、社会や人間の暗部と対峙した鴨居玲など、日本の近代洋画史を彩る69人の作家による80点の絵画をご紹介します。また、あわせて当館の所蔵品から曾山幸彦、有島生馬、海老原喜之助、山口長男など、鹿児島ゆかりの作家の洋画約10点を展示します。巨匠たちの名画を通じて、明治から昭和

2023年秋号 No.25

市美だより

鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館
〒892-0853
鹿児島市城山町4番36号
TEL(099)224-3400



無料開放日のお知らせ

毎月第3日曜日は、小・中学生は無料開放日です。所蔵作品展 + 小企画展を無料で鑑賞いただけます。

10月15日(日)、11月19日(日)



橋口五葉《ベゴニアほか》(五葉百花譜)

細かい描写、あふれる魅力

1904～10年頃、鉛筆・水彩、紙、32.1×24.2cm
鹿児島市出身の画家・橋口五葉は幼いころから花を好み、自ら種をまいて育て、開花すればそれを描いていました。美術学校時代も年中草花を写生していたそうです。五葉が明治期末に残した作品の中に、花々を細密に写した水彩画の一群があります。数多くの花の絵を「百花譜」と呼ぶ伝統があることから「五葉百花譜」とも呼ばれています。

《ベゴニアほか》は、その一枚です。作中に「藤菊」などの和名や「BEGONIA」の英語名が記され、呼び名を細かく調べていたことが分かります。描写が細部まで精緻で、植物の質感や立体感まで細かく表現されています。葉の色の美しさや形の面白さ、花の色、形から伝わる柔らかさなど、絵としての魅力にあふれてい

ます。五葉の描く草花はみずみずしく、対象への深い愛情を感じさせます。



秋の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

ミニ特集：スポーツとアート

会期：9月26日(火)～12月10日(日)

ミニ特集では、燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会の開催にちなみ、スポーツをテーマに展示しています。藤田嗣治《格闘技》は、油彩大作《争闘》の構想段階の素描で、筋骨たくましい男性像を通じて「力」が表されています。背負い投げを決める瞬間を描いた内川達《柔・冨え》は、柔道を指導していた作者ならではの気迫あふれる表現が見どころです。亀倉雄策の1964年東京オリンピック公式ポスターは、日本のグラフィックデザイン史を代表する名作。この大会に着想を得て、宮之原謙はスポーツをモチーフにした陶芸を制作しました。東京2020では、公式ポスターに漫画家の荒木飛呂彦や浦沢直樹を含む国内外の19作家が携わり、野老朝雄とGOO CHOKI PARによる2点は、大会を象徴するアイコンックポスターに選ばれました。1972年に鹿児島で開催された太陽国体では、参加章のデザインを郷土作家の帖佐美行が手がけました。藤本東一良《ヨットハーバー》には、ヨット競技会場となった平川港区からの風景が描かれています。様々なスポーツの美をお楽しみください。



秋の所蔵品展展示風景

- た岸田劉生、昭和期に黄金時代を築いた安井曾太郎と梅原龍三郎、異国を描いた佐伯祐三や、社会や人間の暗部と対峙した鴨居玲など、日本の近代洋画史を彩る69人の作家による80点の絵画をご紹介します。
- また、あわせて当館の所蔵品から曾山幸彦、有島生馬、海老原喜之助、山口長男など、鹿児島ゆかりの作家の洋画約10点を展示します。巨匠たちの名画を通じて、明治から昭和にかけて約100年の近代洋画の潮流を一望するとともに、鹿児島ゆかりの作家たちの足跡を振り返る機会となりましたら幸いです。

観覧無料 市民アートフェアかごしま2023
2023.10.31TUE - 11.5SUN 地下展示ロビー・講堂
第18回市民作品公募展を開催します。つくる喜び、観る楽しさを実感いただける展覧会です。